

令和7年12月定例教育委員会会議録

- 1 日 時 令和7年12月2日（火）10時
- 2 場 所 市庁舎別館3階 特別会議室
- 3 出席者 教育長 蔵元洋一
教育委員 衛藤修身、八木秀和、太田かおり、鶴田弥生
- 4 欠席者 なし
- 5 事務局 教育部長 清水秀一
教育総務課長 山口研治
学校教育課長 船元幸徳
指導室長 靄 浩二
生涯学習課長 大畑祐一郎
教育総務課課長補佐 近野久幸
学校教育課課長補佐 濱田大輔
学校教育課課長補佐 掛橋賢議
生涯学習課課長補佐 吉田浩之
教育総務課教育総務係長 秦 薫
- 6 傍聴人 4人
- 7 議事日程 別紙のとおり
- 8 議事次第 別紙のとおり

定 例 教 育 委 員 会 議 事 日 程

令和7年12月2日(火)10時00分

1 会議録の承認

令和7年11月定例教育委員会の議事録の承認

2 報告事項

- (1) 令和7年12月学校教育行事及び社会教育施設行事について
- (2) 中間市新中学校施設整備実施計画策定業務について（中間報告）
- (3) インフルエンザの状況について
- (4) 「地方教育行政功労者表彰」受章の報告について

3 協議事項

- (1) 令和8年1月定例教育委員会の日程について

[開会時刻：１０時００分]

蔵元教育長 定刻となりましたので、令和７年１２月定例教育委員会を開催いたします。それでは、レジュメに沿って進めさせていただきます。
まず、会議録の承認です。令和７年１１月定例教育委員会の議事録の承認についてお諮りをいたします。いかがでしょうか。

教育委員 <<承認>>

蔵元教育長 ありがとうございます。それでは、報告事項に移ります。
令和７年１２月学校教育行事及び社会教育施設行事についてそれぞれ説明をお願いします。

鶴指導室長 １２月の学校行事について説明します。
まず、共通行事についてです。
２４日は小中学校２学期の終業式です。給食終了は、小学校が２２日、中学校が２３日です。２５日には、県庁において福岡県とびうめ教育表彰式が行われます。本市からは、福岡県公立学校優秀校表彰を受賞した南中学校と福岡県公立学校優秀教職員表彰を受賞した東中学校の高倉健太郎先生が、当日表彰されます。
次に、各学校の行事です。
各小学校では、第２週に中間市標準学力調査が行われます。これは本市の学力向上の取組の１つで、小学校全学年を対象に行います。各学年の学力の状況を客観的に把握し、授業改善のための資料として活用していきます。その他では、第３週に各小学校では期末の個人懇談が、各中学校では三者面談が実施されます。
学校別には、１０日に中間中校区の入学説明会が行われます。底小と中間小の６年生が中間中を訪問し、体験授業や生徒会による学校紹介等が計画されています。また、北中で５日に、南中で２３日に、高校入試を前に、それぞれの進路に向けて取り組んでいる中学３年生を励ます「激励集会」が計画されています。集会では、下級生から歌やスライドでの激励のメッセージが贈られるとのこと。以上が主な１２月の行事です。

蔵元教育長 只今の説明について、ご意見ご質問等はございますでしょうか。衛藤教育委員。

- 衛藤教育委員 1点目は、共通行事の福岡県とびうめ教育表彰式について、中間市から提出された教育論文は何点か教えてください。
- 2点目は、中間中の10日の新入生体験授業についてです。2、3年前からこのような形の入学説明会があっていますが、昨年度までは体験授業そのものが30分程度の授業で展開されて新入生に体験してもらうという取組をされていました。本年度もそのような内容で行われるのか教えてください。
- 3点目は、南中の4日に希望が丘高校体験入学（1年）とあります。内容についてもう少し詳しく教えてください。
- 鶴指導室長 1点目の教育論文については、本年度は中間市から論文の提出はありませんでした。
- 2点目の中間中校区の入学説明会については、本年度も昨年度同様の内容となっています。
- 3点目の南中の希望が丘高校体験入学（1年）は、1年生が希望が丘高校のバスを利用して午前9時に出発して学校を訪問することとなっています。内容につきましては、初めに副校長先生から学校の説明をしていただいた後に、エステ、自動車、ビジネスマナー、音楽の4つのコースに分かれて見学、体験することになっています。12時に学校に戻ってくる予定となっています。
- 蔵元教育長 その他ご意見ご質問等はございますでしょうか。八木教育委員。
- 八木教育委員 東中の5日のフィードバックテストについてです。これは、期末テストで行われた内容をもう一度実施して生徒たちの理解を深めるということで非常に良い取組だと思います。他の中学校でも行われているのか教えてください。
- 期末テストなどの定期考査が行われた後は、生徒たちも気が抜けて中休みのような形になります。そのようなことを防ぐ意味でも良い取組だと思います。他の中学校にも横展開すると非常に良いと思いますので意見させていただきました。
- 鶴指導室長 ここに記載しているフィードバックテストは東中だけですが、生徒たちに確かな学力、学習内容の定着を図るために他の学校でも同様の取組をしているものと捉えています。

蔵元教育長 その他ご意見ご質問等はございますでしょうか。
ないようですので、続きまして社会教育施設行事について説明をお願いします。

大畑生涯学習 12月の社会教育施設行事について、主なものをご説明いたします。
課長 まずは、中央公民館事業です。
7日の日曜日10時からと13時30分から、生涯学習課仮事務所におきまして、冬の親子ふれあい教室「自然素材で作るクリスマスリース教室」を開講いたします。講師に、ふくおか森林インストラクター会の方を迎え、木の実や小枝などの自然素材をもとに、工夫をしながらクリスマスリースを作成し、親子で自然の楽しさや環境の大切さを学ぶ講座で、材料費は500円となっております。対象は小学生と保護者で、募集定員各回12組24人の合計24組48人に対し、36組83人の申込みがありました。そこで講師と協議し、定員を各回16組32人の合計32組64人に変更しました。その結果、子どものみの作成とすることで32組75人が受講できるようになりました。全員受講させたかったのですが、講師から、自然素材を利用した講座であり、環境破壊を防止するため収集できる自然素材の量には限りがあることから、中間市の受講者を増やした場合に他の自治体の講座の受講可能人数を減らさなければならなくなるため、受け入れ可能人数を制限させてほしいとの申出がありましたため、残念ながら全員の受講はかないませんでした。
その他の講座としては、おもしろ歴史講座は徳川吉宗に関する講座を、きらめき大学は、メンタルケア・アドバイザーの赤松文雄氏をお招きし、「笑って健康！笑って人づきあい」と題しまして、笑うことを通じて「心の健康づくり」を学ぶ講座を、りふればーくは、ちょっと贅沢なクリスマス料理としてスイーツを作る講座を行います。
また、やさしい太極拳秋季講座、大人の手習い秋季講座、サタデーシェフを今月も行います。
次に体育文化センターです。
今月は、スポーツ協会主催の大会はありませんが、定例のなかま元気スポーツクラブ及びスポーツ協会自主事業の各種教室を開催予定といたしております。
次に図書館です。
7日と14日の日曜日14時から、ボランティア養成講座として、図書館ボランティア講座を開催いたします。この講座は全2回の連続講座となっております、図書館の概要や本の並べ方、修理方法等の司書の補

助業務に関する講話や実践を行います。なお、今回の講座を受講された方については、今後新たに創設する予定の図書館ボランティアに登録してもらえようアプローチをしていくとのことです。

13日土曜日11時から、ほっとブックなかまのみなさんによるあかちゃんのためのおはなし会を開催いたします。対象は、0歳児から2歳児の子どもと保護者となっており、あかちゃん向けの絵本の読み聞かせやリトミック体操を行います。

14日から28日まで、「年末無制限貸出キャンペーン」を開催いたします。年末、年始の休館中に利用者の利便性を図るため、通常貸出10冊を無制限に変更し、同時に返却期限も延長いたします。

20日土曜日11時より、「クリスマスおはなし会」を開催いたします。なかまフレンズのみなさんによる絵本の読み聞かせや手遊びなどです。定員は先着15名程度を予定しております。

次にハーモニーホールです。

毎週木曜日と土曜日にえいご講座を開催します。これは、講師にネイティブスピーカーの方をお招きし、英語を楽しく学べる講座となっており、「話す・聞く・読む・書く」を各自の状況に合わせて習得できます。対象は中間市内の小学生で、英語の音に慣れ、身近な単語や表現を楽しく習得する1・2年生クラス、基本的な表現を理解し、簡単な自己表現をできるようにする3・4年生クラス、語彙力・読解力を強化し、短い作文やスピーチに挑戦する5・6年生クラスの編成で、料金は無料となっております。講座は、11月から3月までの各クラス全23回の連続講座となっており、講座の集大成として、3月に成果の発表会を小ホールで開催することとしております。定員は各クラス10名となっており、現在、1・2年生クラスは13名、3・4年生クラスは15名、5・6年生のクラスは5名の申込みがっております。定員を超えたクラスにつきましては、講師と相談し、全員受講できるようにしております。また、定員に満たないクラスにつきましては、引続き募集を行うこととしております。

8日月曜日13時30分から、明治安田生命プレゼンツだれもが知りたい市民講座、からだのなかから元気にいきいき血管講座を開催いたします。明治安田生命相互保険会社と協働で、明治安田生命の講座専門の職員が講師となり、血管の基礎知識や心臓や脳などの血管にかかわる病気、その予防法について学ぶことのできる講座です。定員は100名で、参加費は無料となっております。

25日木曜日14時から、エントランスホールにおきまして、ミュージ

ックスクエアティータイムコンサートとして、「ハーモニック・パル&オカリナ青い鳥」によるコーラスとギター、オカリナの演奏が開催されます。

以上が社会教育施設の主な行事予定でございます。

蔵元教育長 只今の説明について、ご意見ご質問等はございますでしょうか。衛藤教育委員。

衛藤教育委員 1点目は、中央公民館事業のクリスマスリース教室についてです。
10名ほど参加できないということですが、こういう特別な教室は、想定している以上の人数が集まってくるというのが今年の例だと思います。前もって講師の方と計画していただければ参加漏れがないかもしれません。来年度からよろしくお願いします。それから、木の実と小枝を使うということで、これは本人が採集して持ってくるのか、それとも講師の方が準備をされたものを使用するのでしょうか。

大畑生涯学習 例年クリスマスリース教室は、申し込みが上回ることで想定されています。例年ですと、講師の方と相談して全員受けれるようにしていますが、今年に関しては、自然素材のどんぐりなどが不作の年となっているようで、全体としてどうしても集められなかったということです。それから、自然素材は基本的にインストラクター会の方が木の実や小枝を採集し持ってきていただけるのですが、個人的に使いたい材料があれば、持ってきていただいたものを利用することも可能となっております。

衛藤教育委員 ハーモニーホールの新しい取組であるえいご講座は非常に良いことだと思います。子供たちにとっても今から楽しみにしているのだらうと思いますが、残念ながら5、6年生の応募者が少ないということです。このことについて、児童生徒たちへの紹介は、どのようにされているのか教えてください。それから、全23回ということで、12月は6回組んでありますが、本年度中に全23回を予定しているのか教えてください。

大畑生涯学習 えいご講座の周知に関しましては、全校に安全・安心メールで周知を行ったり、全校生徒にチラシを配布したり等の周知方法を行っております。それから、全23回ですが、来年の3月までにあわせて全23回を行う予定です。

- 衛藤教育委員 関連で18日は、えいご講座がありますが夜の部になっています。
18時から18時45分までであり、この時間は外は真っ暗です。送迎等については、どのように対応されてるのか教えてください。
- 大畑生涯学習課長 送迎に関しましては、保護者の方の送迎を想定しています。
- 蔵元教育長 確認ですが、小学校5、6年生の参加が他の学年の半分以下で、生涯学習課が考える原因は何だと思えますか。
- 大畑生涯学習課長 5、6年生に関しては、授業も始まっているということもございますので、教科に対する好き嫌いが生じていて、意識の高い児童だけが参加しているという状況になっているのではないかと考えております。この件に関しましては、再度周知させていただきながら募集を深めていきたいと考えております。
- 蔵元教育長 この講座については、市の予算編成上、1年ごとになりますが、今年度初めての取組ということで新年度に関しての考え方を教えてください。
- 大畑生涯学習課長 今年度初めての試みとなっております。3月の発表会に向けて、がんばっていると思いますので、その成果を評価しながら、できれば来年度以降も引き続き行っていきたいと考えております。
- 衛藤教育委員 えいご講座の講師の方は、すべて外国人の方なのか教えてください。
- 大畑生涯学習課長 ネイティブスピーカーの方と英語に堪能な日本人講師の方が組んで講座を行っています。
- 蔵元教育長 その他ご意見ご質問等はございますでしょうか。鶴田教育委員。
- 鶴田教育委員 図書館を中心とした行事に関連いたしまして、読書について少し意見を述べさせていただきます。
以前より読書離れについては、様々なところで伝えられていますが、最近のベネッセの調査では、1日の中で読書の時間が0分だという子供が半数を超えたと発表されました。また同時に、読書の大切さを家庭で伝えていないと回答した保護者も増えているということでございました。

こうした現状をみますと学校での読書活動だけではなく、家庭や施設、地域が連携して子供の読書体験を支える必要性を改めて感じているところです。中間市でも読みきかせの活動やおはなし会、ボランティアのみなさんの活動など、多くの方々の協力によって実施されている事業がございますが、今一度、子供たちの読書意欲向上という明確な目的を意識しながら事業がより効果的に実施されることを期待しています。

蔵元教育長 このことについて、私も大変重要な部分だと思っています。これについての取組が小中学校であれば教えてください。

鶴指導室長 読書週間等を使って読書の取組を進めていたり、日常的に学級にある本や図書館にある本を借りて、読む機会を設けたりしていますが、今鶴田教育委員がおっしゃったように読書離れが進んでいる現状があると思いますので、この部分についてはより取組が必要になってくると考えております。

蔵元教育長 その他ご意見ご質問等はございますでしょうか。
ないようですので、続きまして中間市新中学校施設整備実施計画策定業務(中間報告)について説明をお願いします。

山口教育総務課長 中間市新中学校施設整備実施計画策定業務について、本日中間報告をさせていただきます。

本年4月から新中学校の敷地として活用していくことが決定しております。中間中学校と中間東中学校の敷地につきまして、最大限有効に活用していくとともに、施設整備の課題であります「校舎及び屋内運動場等の整備の方向性」「敷地内段差の解消」「樹木が繁茂している法面の整備」「アクセス道の整備」について、経験豊富な設計会社に業務を委託し、検討を進めてまいりました。本日は、これまで検討いたしました施設整備の方向性につきまして、ご説明させていただきます。

まず、令和7年度中間市学校教育重点目標＜概要版＞をご覧ください。教育委員会では、教育目標として、未来を切り拓く力をもつ子供を育てる学校教育の実現を目指しております。将来を予測することが困難な時代を生きていく子供たちには、持続可能な社会の担い手として、新たな価値を生み出していく力が求められています。

学校教育が、様々な変化に積極的に向き合い取組を見直していくこと、さらなる充実に努めるため、「確かな学力」「豊かな心」「健やかな体」の

育成、「特別支援教育」の充実、「信頼される学校」づくりの5つの重点目標を柱に取組を進めております。

教育委員会事務局といたしましては、学校再編を進めるに当たり、これからの学校教育のソフト面の内容に対応できるよう、学校全体を学びの場として捉え、横断的な学びや多目的な活動に柔軟に対応できる学校施設、部活動や社会体育活動が促進できる学校施設、災害時の避難所機能を有する災害に強い学校施設など、高機能かつ多機能な学校づくりの検討を進めてまいりました。

右上に第3章新中学校施設の再編整備とあります資料をご覧ください。

新中学校施設整備実施計画から抜粋した資料になります。

新中学校施設整備の計画コンセプトにつきまして、ご説明いたします。

新中学校施設整備の計画コンセプトは、先ほどの教育目標を踏まえ、

「地域とともに未来を拓き育む、次世代の新中学校」とし、4つの基本方針として、「安全・安心な学びの場」「未来を見据えた計画」「地域とともにある学校」「環境・防災・経済性」を掲げております。

特に、今回の中間報告では、「安全・安心な学びの場」について、敷地内高低差、擁壁や法面、アクセス道に対する課題の整理、そして施設整備の方向性について整理を行ってまいりました。

こちらの資料、中学校再編に係る施設整備の方向性の検討についてをご覧ください。

学校再編において、最も重要である要素は、先ほどもご説明させていただきましたが、「教育の質の確保と地域コミュニティの持続性の両立」であると考えます。子供たちの学びを最大化し、地域の絆を維持・強化できる学校づくりを行ってまいります。

その中で、改めて学校施設の目指すべき姿は、児童生徒が安全かつ快適に学ぶことができる教育環境の充実であり、児童生徒一人一人の教育的ニーズに応えることができる施設の整備が求められていると考えています。そのため、既存の校舎の改修では、構造上の制約から大規模な空間構成の変更は困難であり、バリアフリー化や多様性に配慮したトイレ、災害時に安心して利用できる環境を早急に整えていく必要がありますことから子供たちが未来社会を切り拓くための資質・能力を一層確実に育成していくことできる新しい校舎等の整備を切望しているところです。

次のページをご覧ください。

新築又は長寿命化改修による施設整備の方向性として、ライフサイクルコストを検討いたしました。ライフサイクルコストとは、建築物の企画・設計から解体までの間に発生する費用の合計であります。本事業に

おける長寿命化改修と新築について、長寿命化改修は、イニシャルコストが抑えられますが、将来的な追加改修や隠れた劣化部分による漏水等のリスク、ランニングコストが新築より高いなど長期的なコスト増加のリスクがあります。

また、新築の場合は、合理的な配置計画や建物、地形を活かした造成計画等によりライフサイクルコストを総合的に検討することが可能になります。また、環境に配慮した高効率な設計によりエコスクールが実現でき、長期的な総コストで長寿命化改修より優位性があると考えられます。

次のページをお願いします。

今回、2019年に策定した学校施設長寿命化計画のデータを基に、改めて長寿命化改修の場合のライフサイクルコストの試算いたしました。長寿命化改修を実施し、建築後80年で改築した場合、2019年から2059年までの40年間で、全10校を長寿命化型で維持・更新した場合、累計で約474億円、年間約11.85億円が必要となります。再編を想定している中学校4校と底井野小学校を含めた5校の建物延べ面積は全体10校の約46.9%であることを踏まえ、費用を試算すると、40年間で約222億円、年間では約5.55億円となります。

4ページをお願いします。

中間中学校と中間東中学校を新築した場合のライフサイクルコストの試算です。

建築物のライフサイクルコストとして、使用年数を80年と想定して、建設・運用・保全・使用終了時のコストを検討いたしました。

2校の合計で約404億円、40年間では202億円となり、年間約5.05億円が必要となります。

今回の試算の結果といたしましては、40年間のコスト比較をした場合、新築の方が年間で約5、000万円のコスト削減が見込まれる結果となりました。

6ページ、7ページをお願いします。6ページ、7ページにつきましては、10月の定例教育委員会の中で耐力度調査結果をご報告しましたので本日のご説明は割愛させていただきます。

8ページをお願いいたします。

敷地内段差への対応及びアクセス動線の整備について、ご説明いたします。まず、中間中学校の敷地が抱える主な課題は、敷地内の高低差が大きく、安全かつ安心な動線が確保されていないこと、メインのアクセス道が狭く、歩車分離が困難で登下校時の安全性が確保されていないこ

と、敷地内のはびこる樹木や劣化が著しい擁壁等、整備利活用が必要であることなどです。その対応策として、大きく3つの案を検討いたしました。

まず、(1)全面造成を行う案です。

敷地内段差への対策として、上段及び下段を中段の現在グラウンドであるレベルに合わせ、敷地を全面フラットにする案です。

アクセス道については、全面造成することから開発行為に該当するため、幅員6m以上を確保する必要があります。

この案は、敷地内段差及び浸水想定区域がなく、防災拠点として十分な機能を確保することができますが、十分な事業費と十分な工期の確保が必要となります。

続いて、(2)部分造成を行う案です。

敷地内段差としては、現在の3段をそのまま活用し、上段と中段をつなぐ緩やかなスロープを設置し、敷地中段と下段の段差約8mは、スロープ状の4m幅の構内通路にて安全性と利便性を確保しています。アクセス道については、下段にロータリーと駐車場を整備し、送迎等の混雑緩和に対応しています。

また、校舎については、現在グラウンドとして利用している中段に設置し、小学校機能を移設することを想定した増築スペースを確保しており、屋内運動場と武道場は既存の施設を活用することを想定した案です。

続いて、(3)部分造成の2つ目の案です。敷地内段差、アクセス道の対策は先ほどと同様です。違いは、屋内運動場と武道場を中段に建設する校舎と同じところに合築して整備する案になっております。

9ページをお願いいたします。

中間東中学校の敷地が抱える主な課題は、既存のグラウンド以外にグラウンドとして利用できる平坦な場所がなく、工事期間中の教育活動への懸念があること、敷地内に高低差があり、安全かつ安心な動線が確保されていないこと、メインのアクセス動線が狭く、歩車分離が困難で登下校時の安全性が確保されていないこと、敷地内のはびこる樹木や劣化が著しい擁壁等の整備利活用が必要であることなどです。中間東中学校につきましても大きく、3つの案を検討しております。

まず、(1)全面造成を行う案です。

敷地内段差につきましてもは、既存のグラウンドレベルに合わせて現在校舎がある箇所を造成し、全面フラットにする案です。アクセス動線については、車両が通れる通路を東側にS字型で新設し、北側から歩行者や

自転車が通行できる6m幅の通路を整備いたします。この案は、全面造成を行うことから、敷地を最大限に有効活用することができ、東部地区の全児童生徒、教職員の学校給食約2,900食を提供できる施設を併設することができ、災害時の防災拠点・地域コミュニティの拠点として機能を確保できる案です。しかし、十分な事業費と十分な工期の確保が必要となります。

次は、(2)部分造成としてグラウンドの周囲に沿って構内通路をつくる案です。敷地内段差としては、既存の2段の段差をそのまま活用し、上段からグラウンドへは屋外階段の再整備とスロープを設置することで対応いたします。アクセス動線については、車両が通行できる6m幅の通路をグラウンドの周囲に沿って校舎がある上段へと新設いたします。

この案は、車両が通行できる構内通路を新設することでアクセス動線の改善を行うことができますが、敷地内高低差への対策、構内通路を新設するための造成費及び工期の確保が必要となります。

続いて、(3)部分造成として、北側や東側、南側から歩行者が通行できる歩道を造成して新設する案です。

この案は、車両のアプローチが現状と同様であるため、登下校時の混雑や災害時の避難経路の確保などの運用面、敷地内段差への対応に懸念があります。

10ページと11ページをご覧ください。

既存の法面、擁壁の整備手法につきまして、それぞれの整備方法、各種工法について、まとめております。

こちらにつきましては、後ほど検討した内容をご説明いたします。

それでは、新中学校における時代のニーズに合った学校づくりについて、校舎、体育館、武道場、敷地内高低差、アクセス道の整備について、教育委員会事務局の考えをご説明いたします。

まず、中間中学校敷地についてです。

①校舎整備、②体育館及び武道場の整備に関する整理といたしまして、校舎は建替えが望ましいこと、体育館や武道場は敷地の有効活用及び維持管理負担の軽減から校舎に集約して建替えることが望ましいと考えます。

③敷地内高低差の解消方法に関する整理につきましては、大規模な造成が開発行為に該当し、敷地に接する道路の拡幅等の条件の整理に時間を要することから、子供たちの学習環境を早期に改善することを重視し、開発行為を行わず、3段という敷地の特性を活かし、スロープや構内通路で解消を図ることが望ましいと考えます。

④アクセス道の整備に関する整理といたしましては、既存のアクセス道において、正門側は生徒用、遠賀川側を車両用の道路とし、運用方法によって歩車分離を図り、登校時の安全確保を図っていくことが望ましいと考えます。

2ページをお願いいたします。

中間東中学校敷地についてです。

①校舎整備、②体育館及び武道場の整備に関する整理については、中間中学校と同様、校舎は建替え、生徒の大幅な増加によって既存の体育館では面積不足が見込まれること、校舎、体育館、武道場を集約して建設し、敷地を最大限有効に活用することが望ましいと考えます。

③敷地内高低差の解消方法に関する整理については、中間東中学校の敷地は6m道路に接していることから、開発行為の基準を満たしており、再編により生徒数が大幅に増加することが見込まれ、敷地面積の不足が見込まれることから、敷地を大幅に造成し、グラウンドの地盤に合わせることで、高低差の解消、有効敷地面積を増やし、グラウンド面積も拡張していくことが望ましいと考えます。

④アクセス道整備に関する整理については、再編による生徒数の大幅な増加が想定されるため、生徒の安全な通学環境の確保、避難所への安全な避難経路の確保の観点から、東側の市道からS字型で車両が通行できるアクセス道を新設することが望ましいと考えます。また、現在、徒歩通行可能な階段が北西に1つのみであることから、全周囲から通学できるよう歩道を整備することが望ましいと考えます。

3ページをお願いいたします。

2法面の整備手法についてです。

(1)法面整備に要する概算事業費として、各敷地の概算事業費をまとめております。

(2)法面整備手法に関する整理については、地盤条件や高さ、勾配、周辺環境など様々な視点に基づいて、総合的に検討し決定する必要があります。そのため、両敷地とも、1つの方法に絞るのではなく、基本的には、植生工とコンクリート吹付工を組み合わせた手法が望ましいと考えます。

3新中学校施設整備におけるプール施設に関する整理についてです。

現在の各中学校のプールは屋外型であり、利用期間は夏季の2か月程度に限定されている状況です。近年の猛暑や天候により授業実施の可否は影響され、利用開始前の清掃作業や利用期間中の水質管理など、教職員の負担はとても大きなものがあります。

今回、コミュニティ広場において、公共施設ゾーンに社会教育施設等を複合・集約化することとされておりますことから、新中学校には、プール施設を整備せず、公共施設ゾーンに屋内型の温水プールを整備し、各学校から通う形式が望ましいと考えております。

4 ページ、5 ページをお願いします。

4 中学校再編に係る施設整備の方向性として、先ほどご説明いたしました各案にそれぞれ、概算事業費をお示ししております。

中間中学校の敷地では、上段の(1)全面造成する案が、約111億5千万円となっており、(2)と(3)の部分造成する案は、それぞれ、中学校のみを整備する場合が、約61億円から約69億円、小学校を一体整備する場合が、約86億円から約97億円となっております。

5 ページをご覧ください。

中間東中学校の敷地では、(1)全面造成する案が約113億円、(2)部分造成する案が、敷地内に自校分の給食施設しか設置できないことから、別敷地に給食センターを整備する費用を含めて、約118億円、(3)部分造成する案が、同じく別敷地に給食センターを整備する費用を含めて、約112億円と試算しております。

6 ページをお願いいたします。

今回、これまでの上半期の検討内容を踏まえまして、教育委員会事務局としての中学校再編に係る施設整備の方向性につきましては、中間中学校は、前頁の(3)部分造成を行う案として、敷地の特性である3段をスロープや構内通路で段差を解消し、運用面にて歩車分離を行うなど狭いアクセス道の対策、中段に校舎と体育館、武道場を整備する案が目指すべき方向性であると考えます。

中間東中学校は、再編により生徒数が大幅に増加することが見込まれ、敷地を最大限に有効に活用することが必要であります。(1)全面造成する案として、敷地内段差の解消、給食センターを設置できる敷地面積の確保、グラウンド面積の確保、東側から車両が通行できるS字型の構内通路を新設することによるアクセス道の改善を行う案が目指すべき方向性ではないかと考えます。

以上につきまして、新中学校施設整備実施計画の中間報告と、これまでの検討による教育委員会事務局として望ましいと考える施設整備の方向性を今回教育委員の皆様にご説明をさせていただきました。

蔵元教育長

確認ですが、東中の開発行為、申請から許可、着工、竣工までの期間は

どのくらいかかりますか。

山口教育総務 東中の開発行為の面積の造成となりますと約2年ほどはかかると考えて
課長 います。造成した後に建設となりますので、造成しない案に比べますと
2年ほど期間が延びてしまうことになります。

蔵元教育長 造成に2年かかり、校舎新築までに2年ということで、東中に入学した
けれど通わないまま卒業するというとも考えられるということでしょう
か。

山口教育総務 今回、全面造成の案になった場合は、2年間造成期間がかかりますし、
課長 その前段で基本設計、実施設計を行う必要があります。そして、それか
らの建設になりますので、東中に通わず卒業するというとも想定され
ると考えております。

蔵元教育長 それでは、只今の説明について、ご意見ご質問等はございますでしょう
か。衛藤教育委員。

衛藤教育委員 1点目は、基本的には長寿命化改修か新築という2案があります。現時
点では、教育委員会は新しく建て替えるという考え方になっています。
市長部局とのすり合わせを今後行われるのか、教育委員会の考え方がそ
のまま再編に向けて動いていくのか教えてください。
2点目は、新中学校における時代のニーズに合った学校づくりについて
という資料の4、5ページに中間中は(1)(2)(3)案の(3)案が望まし
いと教育委員会はまとめています。東中は(1)(2)(3)案の(1)案が望
ましいとまとめています。まとめたことは、様々な状況の中でよく理解
できますが、総事業費が組んであります。私がわからないのは、教室を
いくつつくるつもりでこの事業費が組んでいるのかということです。教
室を10個つくるのと3個つくるのでは事業費が変わると思います。教
室は、中間中が10個くらい、東中が12個くらい作られるのではない
かと想定して、これをつくられたのではないかと私は思っていますが、
どこにも学校規模が示されていません。だから、学校規模をどう考えら
れてこの事業費を組まれたのか教えてください。

山口教育総務 1点目の事業費のすり合わせについてです。現時点も市長部局と調整を
課長 いろいろ行っているところです。まず、コミュニティ広場・学校再編検

討委員会にこの資料を提示いたしまして、ご意見いただいた中で今後進めていきたいと考えております。もちろん、その中でも教育委員会事務局としては、本日ご説明させていただいた方向性が望ましいということは、説明した中で検討していきたいと考えています。

2点目の総事業費の学校規模についてです。学校規模については、今開催しております通学区域審議会で検討しているところになります。今回の実施計画においては、想定した数字の中で仕様書にてお示した学校規模にて概算事業費を試算していただいています。中間中の敷地ですと、生徒数は250人、東中は760人を基礎数値として今回検討を行っております。今回学校再編におきましては、クラス替えができる学校規模を目指しておりますので可能な限り適正規模の学校になるように、中学校も小学校も12学級から18学級というのが適正規模の学校になるのですが、できる限り中学校であれば1学年3学級のクラスを目標にこれからも検討を進めてまいりたいと考えております。

衛藤教育委員 予算についての考え方はわかりました。その中で、中間中は250人程度、東中は760人程度の学校規模を考えているということですが、教育委員会がお示しになった児童生徒の推移の資料を見ますと、2025年度は862名というのが推移表の数字です。2035年は834名、2040年は845名、つまり800人台で推移するのに、なぜ初めから1,000人で計算しているのかよくわかりません。2040年でも持続できる学校をつくるというのが、学校施設整備方針の中にまとめられていると思います。これは、令和7年1月10日に出された分です。この中に40年先でも持続可能な学級数である1学年3学級以上確保し続け、適正な教員配置を目指す学校編制をするとまとめられています。ということは、この整備方針からすれば、中間中の250人というのはないのです。整備方針に従えば、1学級40人で計算することになっているので、中間中は9学級で最低360人は入れるような学校をつくらなければいけないとまとめられています。基本方針にまとめていることが、基本になることだと思います。流動的な部分ですから、山口教育総務課長がおっしゃったのは、1つの考え方でよくわかりますが、1学年3学級以上を確保するという前提で学校規模をぜひ考えて欲しいと思います。なぜ1学年3学級以上なのかというと、私が現職の時に2学級と3学級を経験したことがあります。2学級で一番困ったのは、児童生徒の中でいじめがおきた場合です。いじめが起きた場合、校内で別のクラスに緊急避

難をせざるを得ないのですが、2学級だと隣になるので緊急避難とはいえません。他の学校に転校せざるを得ません。だから、そういう意味でも3学級にしてほしいと思います。もう1つは、体育会です。中間市の小学生も中学生も体育会では非常に力を発揮し、楽しみにしています。中学校で1学年2学級しかない3学年6学級のため、子供たちが体育会に情熱を傾けるということが非常に難しくなります。3学級にしてブロック別にするという方法もできますので、そういう意味からも3学級が良いと思います。私が経験した中で、基本的に2学級と3学級で何が違うかというと、子供の活気が違います。3学級はものすごく活気がみなぎっています。2学級だと、おとなしいのか活気がないのか、よく区別がつかないということを経験した例がありますので、たった1学級しか違いますが、3学級という意味があると考えています。それから、子供同士が切磋琢磨するということです。2学級と3学級では、切磋琢磨の仕方が違います。3学級あると子供たちが、互いに良い意味で刺激し合い、がんばっているなとよく感じました。私が学校にいた経験からも、ぜひ3学級を確保して欲しいと思いますし、そのような計画で学校再編に取り組んできたものと確信しています。学校編制の大事な考え方だと思います。今後よろしくお願いします。

2点目は、新中学校における時代のニーズに合った学校づくりについての資料4ページの間中学校敷地における整備案(3)で、一部浸水想定区域が存在すると記載があります。学校再編はそういうものをなくすためにするのではないかと思います。危険なところを残したまま学校再編できるのかが疑問点です。それから、中間中で一番危険なのは、今校舎が建っているところをグラウンドにして、今のグラウンドに校舎をもってきて、下はスロープをつけて子供たちが安全安心に通れる通路をつくると理解しています。そうすると、今の校舎があるところをグラウンドにしたら、グラウンドの方が高くて校舎の方が低くなる設定です。中間中はグラウンドと校舎の間に一番低くて階段が5段あります。約90cmほど高さが違います。そのような設計だと、今後ゲリラ豪雨が予想されますので、グラウンドで吸収できない水が上から流れてくると思います。そういう設計の仕方の良いのかということと、浸水想定区域を残したままで良いのかという2点の疑問点があります。

3点目は、東中は5mある段差をなくして全部フラットにして校舎を建てるという考え方です。それしかないとも思います。先程教育長が言われたように、東中に通っている子供たちは一度も新しい学校を経験せずに卒業するということは大変悲しいことだと思います。

それから、今の車道と子供たちが通っている通学路は、1つしかありませんが、そこも全部削ってしまいます。私が想像するには、東中学校前の信号がありますが、その信号と同じ高さに全部フラットになると思います。となると、東中としては最適だと思いますが、横にある住宅地が高く学校は低いところになると段差ができ、そこで市民とのトラブルはないのか心配です。

このようなことをいろいろ考えますと、予定されている令和10年4月の開校は可能なのか、今までの作業を考えると無理なのではないかと思っています。もし無理であれば、早めに広報等で学校再編については延期すると市民の対する情報発信をきちんとしていただければありがたいと思います。

山口教育総務
課長

ありがとうございます。

1点目の学校の規模についてです。現在通学区域審議会で、両校とも適正規模の学校を目指し、整備方針にもありますように、中学校であれば、クラス替えができる1学年3学級以上が今だけでなく、今後も維持できるように検討を進めているところでございます。今回の概算事業費に関しては、基礎数値ですので、今後の学校規模が通学区域審議会で決まった内容を踏まえて、新しい学校づくりについては、進めてまいりたいと考えております。

2点目の浸水想定区域や中間中の上段中段に関してです。校舎はもちろん高い方が望ましいと考えております。造成することによって擁壁の高さの違いが出てきます。中間中、東中それぞれ特色のある敷地ですので、それぞれの敷地の勾配にあった擁壁の工法を行っていったり、中間中の浸水想定区域には建物は建てずにグラウンドにして、何かあれば新しく設ける通路を使うなど、今の3段を活かした中で工夫をして運用してまいりたいと思います。

3点目の令和10年4月の開校について、整備の方法によって造成等を行うと非常に厳しい状況になってきております。今後実施計画を進めていく中で、もちろん造成が決まれば生徒の方には移動していただくなど必要になってくると思います。そのようなことも含めて今後検討し、情報提供等は早めに行ってまいりたいと考えております。

衛藤教育委員

基本方針に書いてあることは、中間市としてまとめられた内容だと思いますので、基本方針に沿って実現できるような再編をしてほしいのが最後のお願いです。

もう1点、心配している部分は、教育委員会は今まで中学校の再編を行った後に、小学校の再編については考えると、今までずっと言われてきたと思います。ところがいつからかわかりませんが、中間中学校に小中一貫校ということで、小学校を入れてあります。今日の説明でも、底井野小が入るという説明がありました。中学校を先行すると決定されて進んでいるならば、小学校を再編するときに改めて小学校の再編はどうするかということの結論を得てから、小中一貫校の問題が出てくるのだらうと思います。順序が逆のような気がして心配しているところです。

山口教育総務課長 もちろん、今後も整備方針に基づいて進めていきたいと思っています。小学校の再編につきましても、まずは中学校を先行して取組を進めていく中で、まだ小学校の再編は決定していない状況になりますが、市長部局から底小の機能を中間中の敷地へ持ってくることの案が示されておりますので、実施計画の中では小学校を持ってくることができるのかということは検討しております。そのスペースも含めて、もし一緒に整備すれば86億円から97億円、一緒に整備しなければ、61億円から69億円とさまざまなパターンを検討している段階です。改めて小学校の再編は今後の検討の中で進めていきたいと思っています。

蔵元教育長 その他ご意見ご質問等はございますでしょうか。鶴田教育委員。

鶴田教育委員 情報発信について、資料等を見させていただきまして、思いましたことがありましたので申し上げます。今後市民のみなさまに説明する場面も出てくると思いますが、その際掲げている目標、4つの基本方針は力を入れて伝えられるのではないかなと感じております。開かれる学校づくりとしまして地域のみなさんとの共有スペースもありますし、通常の教育活動の場となる教室スペースのゾーニングについて、セキュリティの観点もしっかりこの段階で考えているということ、それからもちろん考えてくださっているとは思いますが、完成後もっとこのようにすれば良かったですねという建物を私も見学し、これまで経験したことがあります。災害時に学校は避難所となりますが、学校から避難することも想定しますと、説明の中の勾配、高低差、スロープ等の言葉がやはり気になってまいります。車椅子ユーザーを含む多様な子供たち、利用者が安全に最速で移動できる避難経路、避難動線についても、初めから十分に検討している、こういった点も入れておくと市民のみなさんも子供たちのことを本当に考えてくれているのだなという印象を持ち、感じていただ

き関心を持っていただけるのではないかと思います。

蔵元教育長 その他ご意見ご質問等はございますでしょうか。八木教育委員。

八木教育委員 この資料を事前にいただきまして、あくまでも中間報告と言うことでお聞きしております。通学区域審議会やコミュニティ広場の話などで同時進行している部分がありますので、概算の事業費は今後増減する可能性があるという前提で見させていただきました。その中で、教育委員会事務局としては、中間中では(3)案、東中では(1)案が望ましいと結論されています。その前提として、新築か改修かと言うことでは、数値も示しているとおりですし、私も保護者として学校に行くことが多いので、やはり新築1本かなとすごく感じています。そこは強く発信していただきたいというのは保護者の意見になります。あとは、造成の方法ですが、いくつかの案を見させていただいて事業費が前後する可能性があるとはいえ、ベストな案を選ばれていると思います。今後、通学区域が決まると生徒数の増減がありますので、内容が変わるということは当然あると考えております。東中学校に関しては、かなり大規模な開発となると感じます。グラウンドの周辺を削りながら埋めながらという形になるので、東中は周りに住宅が多く存在し、開発中の砂埃等の配慮や周辺住民への説明会も、保護者説明会とはまた別に必要になるのではないかと思います。そのあたりも考慮していただければと思います。それとこの案をみさせていただくと、これをするによってかなりの有効面積が増えますので、給食センターや駐車場が増えるという印象を持ちます。グラウンドも広がりますが、今後地域展開される部活動に関しても拠点になれる敷地だと感じましたので非常に楽しみでもあります。ただ、通学路に関しては車の動線や朝霧方面への抜け道だとか、急な階段等を解決しないとならない点、仮に生徒が増えて自転車通学も始まるとなった場合に、信号からの登り口の道幅がすごく狭いので一方通行にできるのかということなどを含めて、地域住民にも迷惑がかからないような形、まずは子供たちが安全にということを一番に考えますが、既存の道路を拡張することは難しいと思っています。現状、車道と歩道は分離されていますが、送迎する車両同士の離合ができないことは変わらないと思いますので、一方通行にするとか、送迎はここまでにする、例えば中間中のように送迎ができる場所をつくるなどを検討して子供たちと地域住民の安全と利便性を考慮した上で設計していただきたいと思います。ただ、今はまだ仮定の状態の中間報告ですので、今後も重視して見

ていきたいと思いますし、このような資料ができたということは地域住民の方の目に触れる機会もあると思いますので、いろいろな話し合いの場を今後も作っていただければと思います。

山口教育総務課長 これからも、様々な段階に応じて決まった内容などを反映させながら、今後整備する内容について検討を深めていきたいと思います。また、しっかりと情報発信についても行っていきたいと思います。

蔵元教育長 その他ご意見ご質問等はございますでしょうか。太田教育委員。

太田教育委員 1点目は、中学校再編に係る施設整備の方向性の検討についての1ページを拝見しまして、まさに未来志向の開かれた学校の設計になるのかなと非常に楽しみにになりました。長寿命化改修か新築かということで、これまでも議論されてきたところですが、非常に説得力のある根拠をもって、長期的なコストだけではなく子供たちの学習環境を整えるという意味でも、やはり新築でなければならないというところが見てとれまして、そういう意味で説得力のある根拠を示していただけたことが非常にうれしく思っております。

2点目は、新中学校における時代のニーズに合った学校づくりについての資料の5ページですが、衛藤教育委員からお話がかった東中のクラス数、教室数の確保等々そういったことがどこにも示されていないということでしたが、おそらく今基本設計の段階で、これから実施設計になりますと、いわゆる建物の教室の配置等の詳細が示されるのではないかと理解しています。そういう意味では、(3)の部分造成を行う案も建物面積としては、十分な教室数だとか他の音楽室などその他の施設が十分確保できる敷地面積があるというように理解してよろしいでしょうか。

山口教育総務課長 (3)であっても、700人を想定した教室は確保できると考えております。

太田教育委員 わかりました。その上で、中間中の敷地に関して衛藤教育委員からお話がありました1学年3学級以上の確保ということで行きますと、中間市の現状の子供の数でいくと、もしかすると2学級とかいうことも現実的な線として見えてしまう可能性があると思います。私の経験でいいますと、2学級か3学級かでいいますと、クラス数が多ければ良いというものではないですが、お互いに切磋琢磨し合うという意味であったり、学

年を活性化させるという意味では、3学級以上あることが望ましいと思っています。その意味でどうやって3学級以上を確保していくのかということにつきましても同時に考えていかなければいけません。蓋を開けてみれば2学級しかいない、もしかすると1学級という時代も来るかもしれないということを見据えた上で、子育て世代を呼び込むまちづくりと合わせた学校再編というのが非常に重要であると考えております。例えば、学研都市ひびきのがあります。ひびきには、数年前に新しく小学校ができました。子育て世代が増えているエリアでもあります。それは、やはりまちの魅力であったり、学校教育における学びの質のレベルの魅力であったり、住みやすさ等、さまざまな魅力に対して、子育て世代を中心に人口が増えています。中間市もそのように人々が魅力を感じて集うまちへとならなければいけないと思います。今回の小学校中学校の再編を機に、どうやって産業をよぶのかであったり、どうやって中間市の魅力を高めていくのかということを戦略的に考えていく必要があると思います。

3点目は、コミュニティ広場の活用というお話もありました。これはとても良いことだと思っています。子供たちだけが使う施設ということではなくて、まさにこの地域とともにという言葉が入っていることがとても素晴らしいことだと思っています。インクルーシブ教育も含めてですが、子供たちと共に地域の市民がコミュニティ広場として活用していただけるような施設ができてくるといいなと思います。そういった意味で、1年間でわずかの期間しか使われないプールを公共の施設として市民も活用できるような形で建設するということは大賛成ですし、財政的にも収益になってくると思います。そういったものや、地産地消のレストランや図書館など、市民の集える場所になれば良いなと思います。

4点目は、タイムスケジュールについてです。

今回東中の(1)案が全面造成するというのが良いという提案をいただいております。その場合は中間中と東中の開校時期がずれてくるとことですよね。そのあたりも含めたタイムスケジュールと、その間に入学した子供たちは、どこの施設で学ぶのかということも含めて計画する必要があります。そういったことを合わせて見れる資料を提供していただければ、いろいろな意味で総合的に考えられるので良いと思います。2年遅れで開校予定ということが現状でわかっているのであれば、それも含めたタイムスケジュール資料を作成いただく必要があるだろうと思います。

山口教育総務課長 今、実施計画として検討させていただいております、敷地の全体図を校舎の内容についても今後案を絞った中で検討していきたいと思っております。今回学校再編を進めていく上で、まちづくりも含めた視点をもって市長部局に提言させていただいて、新中学校の配置を決定いたしました。学校は見守りであったり、草刈りなど地域の方の支えがあって運営できていると認識しております。建物だけが良くなるのではなくて、今回全体で説明させていただいたようにソフト面も含めて、学校が魅力的なものになるように学校再編を機に進めていきたいと考えております。最後に、タイムスケジュールにつきましても、今概算事業費の検討を進めている段階になりますので、今後検討を進める中で、造成になった場合は、どのように子供たちに移動してもらい進めていくのか、新中学校2校とも同時開校を行っていききたいと思っておりますので、それに向けてどのようなタイムスケジュールができるのかを今後検討していきたいと思っております。

衛藤教育委員 最後に、非常にわかりやすく将来的なことを考えた資料を作られており、大変素晴らしいと思います。最終的には議会で議決されるかどうかだと思います。いくら考えても議会で議決されなければ、また改めて検討せざるを得ないという状況になると思います。教育委員会がこのような資料をつくっていますが、議会との連携というのはどうなっているのですか。

蔵元教育長 議会との連携といいますか、議会へ提案する権限だったり予算を編成する権限は教育委員会にはありません。市長にしかありません。というところなので、市長部局にこれについても教育委員会からまとめたものを提言して、市長部局から回答が返ってくるということです。小学校についても、底小、北小、西小と回答が返ってきたけれども、教育委員会としても、底小と中間中の一体化の提案を市長部局から受けたということしか考えていないので、小中一貫校に対しても教育委員会の内部でもっと慎重に考えて進めていくべきだと考えています。そして、衛藤教育委員が言われますように、最終的には議会の議決をもってではないと全ては進みません。その提案、権限は市長にしかありませんので、ことあるごとに細かいところも市長部局とつめていきたいと考えております。

太田教育委員 それに関しては、中間市の小学校、中学校を見学に行きますと、本当に

老朽化が進んでいまして、これ以上子供たちの学びを止めるわけにはいかないのです。そういった意味でも、これ以上遅れさせるということが絶対にないように、ここは教育委員会だけでなく関係部局全体が連携し合って同じ方向に向かって進めていただきたいと強く願っております。

蔵元教育長 そういったところで、市長と教育委員との意見交換の場として、総合教育会議というものを設定しています。そこで確認ですが、今後３月までと４月以降の具体的なスケジュールとして、どのあたりで総合教育会議が開催できるのか教えてください。

山口教育総務課長 本年度中にこの実施計画をまとめることとしておりますので、早ければ２月くらいには総合教育会議を開催して、市長との意見交換を実施できればと考えております。この資料につきましては、今回パブリックコメントも予定していますので、その時期に合わせて意見交換を行い、実施計画としてまとめていきたいと考えています。実施計画がまとまれば、来年度以降、設計業務等の予算を計上いたしまして、認めていただければ、基本設計、実施設計の業務の契約等を進めてまいりたいと考えております。

蔵元教育長 進捗状況については、できるだけ詳細に、また丁寧に情報発信をしていきたいと考えております。
それでは、その他のところで何かございますでしょうか。衛藤教育委員。

衛藤教育委員 現在インフルエンザが非常に流行しています。中間市も例外ではないと思います。状況について教えてください。

山口教育総務課長 市内小中学校のインフルエンザによる学級閉鎖につきまして、ご説明いたします。
昨日１２月１日までの状況です。小学校５校で８クラス、中学校１校で３クラスにて学級閉鎖を実施または実施中でございます。現在実施中の学校は、北小学校２年生の１クラス、中間小学校２年生の１クラス、西小学校３年生の１クラスにて、本日１２月２日から１２月４日まで学級閉鎖を実施しております。

衛藤教育委員 テレビ等を見ていると、インフルエンザの危険情報で、「危険になっ

ています」とワンランクが上がって「警告しなければならない」という状況になっています。中間市独自でそういうことについて今危険なのか警告状態なのかについては判断できないのでしょうか。

山口教育総務課長 市自体で判断しているということは、把握していませんが、県内の状況で警報状況等は判断されていると認識しています。

八木教育委員 私もインフルエンザのことは気になっております。生徒の感染が広がっていることは感じていますし、先生方も結構罹患されていることを聞きます。特に今後、早い生徒では1月から受験が始まり、web出願も始まっていますので、そのようなときに担当の先生が休まれるとなった場合は、生徒も保護者も困ってしまいますので、そのような場合のバックアップ体制にも十分注意していただきたいと思います。

鶴指導室長 そのように学校にも周知していきたいと思います。

蔵元教育長 その他ご意見ご質問はございますでしょうか。
ないようですので、その他報告事項はございますでしょうか。

山口教育総務課長 ご報告させていただきます。
本市教育委員として平成20年7月1日から令和6年6月30日まで4期16年にわたり、地方教育行政の充実・発展に尽力されました河本直子様が、その功績が認められ、10月9日に文部科学大臣から「地方教育行政功労者表彰」を受章されましたことを、皆様にご報告させていただきます。また、受章されたことを広く市民の皆様にもお知らせするため、広報なかま12月号に記事を掲載しておりますことをご報告いたします。

蔵元教育長 それでは、協議事項に移りたいと思います。令和8年1月定例教育委員会の日程について説明をお願いします。

山口教育総務課長 令和8年1月の教育委員会の日程につきましては、1月9日金曜日13時30分から、会場は本館4階第1委員会室での開催を予定しております。
ご協議をお願いいたします。

蔵元教育長 日程等はいかがでございましょうか。

教育委員 《了承》

蔵元教育長 ありがとうございます。それでは、そのように決定いたします。
それでは、その他のところで何かございますでしょうか。
ないようですので、これもちまして、令和7年12月定例教育委員会を
終了いたします。ありがとうございました。

[閉会時刻：11時35分]

令和 8 年 1 月 9 日

教育委員 鶴田 弥生

教育委員 八木 秀和